

第3 回海外研修／ 3rd Overseas Study Tour

(於台湾) / in Taiwan

March 2004

【日本「アジア英語」学会ニューズレター第15号
より

Excerpt from JAF AE Newsletter, No. 15】

JAF AE STUDY TOUR in Taiwan

相川真佐夫 (京都外国語短期大学)

2004年3月23日～27日、JAF AE のメンバー 20名は台北市ヘスタディツアーに出かけました。小学校訪問、特別講義、師範大学訪問を含めた研修は、訪問の期間や移動のことを考えると、ちょうどよかったのではないかと思います。

さて、今回訪問した台北市立永安国民小学は、創立間もない新しい学校で、とても綺麗な学校でした。台湾ならではの温かい歓迎を受け、校長先生の日本語でのご挨拶、英語教員とのディスカッションと、大変良いムードの中で交流を深めることができました。英語の授業は1年と4年生2クラス分の合計3時間を用意してくださいました。活発な授業、絵本を読み聞かせる授業など、バラエティ豊かな英語授業を観させていただきました。また、最新設備を備えた施設、オープンスペースの教室など大変興味深い学校訪問でした。ついでに給食も試食致しました。この学校の訪問については、台北駐大阪経済文化辦事處のご高配により実現できたものです。この場をお借りして、御礼申し上げます。

特別講義は、廖咸浩氏 (台湾市文化局長・国立台湾大学) の “The Obsession with Modernity: Why English as a Second Official Language?”, 陳淑嬌氏 (国立嘉義大学) “The Spread of English in Taiwan” でした。廖氏には、言語政策に関わる立場と学者からの立場から、英語第2公用語論についてお話し頂き

ました。また、陳氏には、台湾での英語の広がりについて、独自のリサーチを紹介して頂きました。また、陳氏から参加者に1人1冊ずつ、講義と同題のご高著をプレゼントして頂きました。

国立台湾師範大学の訪問では、主任の張武昌氏による「台湾の英語教員養成制度」の概説、および葉錫南氏の指導による英語教育法の模擬授業を参観させて頂きました。師範大学は、日本の統治時代に立てられた建物がそのまま残っており、また周囲に点在する瓦屋根の日本家屋と合わせて、何か不思議な時間と空間を感じました。夕方の懇親会には、教授5名が参加してくださり、大変有意義な時間を過ごすことができました。

その他、英語教育や言語学を扱う出版社、教科書センター、教科書会社、国民中学の訪問をはじめ、中正紀念堂、孔子廟 (学問の神様)、故宮博物院への観光、夜市への散策、A～C級グルメ料理、文化的体験、English Taxi など、盛りだくさんの内容に参加者一同、気も身も満腹になったことと思います。総統選挙直後のゴタゴタで、緊張する市内の様子が日本のテレビでも流れていましたが、台湾総統府の拝観以外は全て予定通りの計画で進めることができました。唯一残念だったことは、毎日雨で傘を手放せなかったことです。

なお、現在、この度の台湾研修ツアーで受けた講義、学校訪問、感想、記録をモノグラフとして刊行することを計画しております。ご期待ください。

台湾ツアー参加記

榎木蘭鉄也 (秋田県立大学)

2004年3月、私は日本「アジア英語」学会の台湾研修ツアーに参加した。本学会の海外研修ツアーは今まで3回おこなわれたが、だんだん内容が良くなってきていると感じ

る。以下、簡単に研修内容とその感想を書いてみたい。

研修ツアーのメインは授業見学であった。小学校や中学校の授業を見学したが、児童生徒からも教師からも学習に対する熱心さがひしひしと伝わってきた。ツアーでの正式な授業見学は、台北でも指折りの優秀な学校の見学であったが、自由行動時間には普通の中学校も見学した。優秀な学校では、児童生徒の英語力が非常に高くて驚いたが、普通の中学校では落ち着きのない生徒や恥ずかしがり屋の生徒もいたので、少し安心した。それにしても、教師はもちろん教育実習生の英語力の高さには脱帽した。

研修ツアーには、台湾の著名な学者を招いての特別講義もあった。お一人目は、社会言語学的に台湾英語について概説された。お二人目は、台湾大学教授兼台北市局長といういかめしい肩書きの方だったが、気さくな感じの方で、流暢なアメリカ仕込みの英語で漫談調に、台湾では英語は公用語にはならないし、なる必要がないという旨を話された。お二人目の方は男前でファッショナブルな方で実年齢よりもずっと若く見えた。大学ではさぞ女子学生に人気があるだろうと思った。その他、台湾師範大学で英語教授法の授業を見たが、学生のレベルが高かったのが印象的であった。また、見学前に師範大学の先生から、簡単なレクチャーがあったが、さすが「先生の先生」だけあって、お話いただいた内容は簡潔で非常にわかりやすかった。私の授業もかくありたいと思った（が難しいですね）。

授業見学と講義以外にも、台湾に通じておられる相川先生ならではの企画があった。それは、夜市の見学と台湾料理であった。特に、夜市の見学では、参加者一同、モノレールに乗ってぞろぞろと相川先生の後について行った。そのなかには中国系の参加者もおられた

のだが、なんとなく相川先生の方が中国人らしくと思ったのは私だけではなかろう。全員での会食はおもに高級料理屋でおこなったが、自由時間に安くて汚い（？）店にもつれていただいた。率直に言うと、高級な店も安い店も非常に美味かった。台湾滞在中は台湾料理ばかり食べていたが、いまでも時々その美味さを思い出すほどである。

最後になるが、今回のツアーを企画実施した相川先生のご苦勞には頭が下がる思いである。相川先生は勤務先を替えられる直前の忙しいなか、いやな顔一つせず、まさに昼夜を問わずツアーの世話をしてくださった。参加者の一人としてあらためてお礼を申し上げます。